

岡山市新教育研究研修センター（仮称）

基本方針

令和5年3月

岡山市教育委員会

## 1. 岡山市新教育研究研修センター(仮称)※ 整備の目的

- (1) 国の動向 P1
- (2) 岡山市の教育を取り巻く状況 P1~2
  - ① 社会が変化する中での、教職員を取り巻く環境変化への対応
  - ② 今日的な教育課題への対応
  - ③ 教員の若返りと人材確保への対応

## 2. 現教育研究研修センターの概況

- (1) 「第3期岡山市教育振興基本計画」における位置付け P3
- (2) 施設の概要 P3~4
  - ① 研究への取組
  - ② 研修への取組
  - ③ 情報教育推進への取組
- (3) 現教育研究研修センターの課題 P4

## 3. 新教育研究研修センターのコンセプト

- (1) 目指す新教育研究研修センター像 P5
- (2) 新教育研究研修センター機能のコンセプトイメージ P5
  - ① 岡山市教育大綱の理念実現を目指す研究・研修を行う施設
  - ② 民間企業や大学等高等教育機関と協働し、専門的な研究・研修を行う施設
  - ③ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた研究や研修、就学相談の窓口となる施設
  - ④ 公民館等、地域における社会教育活動の実践に基づいた研修を行う施設
  - ⑤ 「教育総合情報センター」としての機能を果たす施設
- (3) 新教育研究研修センターにおける取組の重点 P6

## 4. 新教育研究研修センターの施設概要

---

- (1) 新教育研究研修センターの想定規模 P7
- (2) 主なエリア概要 P8~11
  - ① 研修エリア
  - ② 研究エリア
  - ③ 情報教育推進エリア
  - ④ 相談エリア
  - ⑤ その他共有スペース

## 5. 施設整備

---

- (1) 事業手法 P12
- (2) 施設規模・環境配慮等の想定 P12
- (3) 想定事業スケジュール P12

# 1. 岡山市新教育研究研修センター(仮称)※ 整備の目的

※ 以下、新教育研究研修センターと表記します。

## (1) 国の動向

国は、平成 29 年に小学校学習指導要領、中学校学習指導要領、平成 30 年に高等学校学習指導要領の改訂を行い、グローバル化や急速な情報化、技術革新等の社会変化を見据え、子どもたちがこれから生きていくために必要な資質や能力について、見直しを行いました。そして、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた学校教育の一層の充実を図るために、学校と社会とが連携・協働しながら、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有する「社会に開かれた教育課程」の実現や主体的・対話的で深い学びの視点からの「カリキュラム・マネジメント」の確立が重要であることを示しました。

さらに、令和 3 年 1 月 26 日、中央教育審議会は、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～の答申で、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」、新型コロナウイルスの感染拡大等、先行き不透明な「予測困難な時代」が到来する中で、2020 年代を通じて実現を目指す「令和の日本型学校教育」の在り方を「全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現」と定義しました。

そして、令和 4 年 12 月 19 日、中央教育審議会は、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～の答申で、「高度な専門職である教師は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努める義務を負っており、学び続ける存在であることが社会からも期待されている」とし、変化を前向きに受け止め、探究心をもちつつ自律的に学ぶ教師が育っていくことを目指すとともに、教師の個別最適な学びの実現のみならず、協働的な学びを実現していくことが必要であると言及しました。

個別最適な学び、協働的な学びの充実を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を実現することは、児童生徒の学びのみならず、教師の学びにも求められています。

## (2) 岡山市の教育を取り巻く状況

- ① 社会が変化中での、教職員を取り巻く環境変化への対応
- ② 今日的な教育課題への対応
- ③ 教員の若返りと人材確保への対応

「岡山っ子育成条例」の理念である市民協働による「自立に向かって成長する子ども」の育成や、「第 2 期岡山市教育大綱」に掲げる目指す子どもの姿である「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を育むために、教職員を育成する教育研究研修センターへの期待は大きいものがあります。

教職員の資質・能力の向上に向け、岡山市の教育を取り巻く状況を認識し、さらなる研究や研修の機能の充実を図っていくことが必要です。

### ① 社会が変化する中での、教職員を取り巻く環境変化への対応

社会における急速なデジタル化や働き方改革の推進等に伴い、教職員を取り巻く環境は目まぐるしく変わってきています。また、社会変化を見据えた子どもたちに求められる資質・能力の変化や指導の個別最適化への対応に向けて、これまで以上に教職員の資質・能力の向上が求められています。

### ② 今日的な教育課題への対応

「第3期岡山市教育振興基本計画」では、目指す教職員像として「情熱、力量、人間力を有し、学び続ける教職員」を掲げています。また、教員等の成長段階に応じた資質・能力の向上の目安とする「岡山市教員等育成指標」を定め、その具現に向けた教職員研修を実施しています。

毎年、「岡山市教員等育成指標」の見直しとともに教職員研修計画の見直しを行っていますが、日々、子どもたちと向き合う教職員は、常に専門性を高めながら今日的な教育課題に対応するための新たな力を付けていくことが求められています。GIGAスクール構想やインクルーシブ教育の推進等の課題に対して、早急に対応することが求められています。

### ③ 教員の若返りと人材確保への対応

教員の急激な入れ替わりにより、学校における若手教員が増えており、先輩教員が若手育成を行うOJTの機能が発揮しにくくなると予想されます。教員の成長が子どもの成長に直結していることを踏まえると、若手の育成に重点を置いた取組が必要になります。

また、全国的な課題である教員志望者の減少は、岡山市においても例外ではなく、人材の確保が急務です。そのため、教員養成段階から大学との連携を強化し、学生に対して教育実践や教職の魅力を伝え、教職キャリアを描き易くする場を設定していく必要があると考えています。

## 2. 現教育研究研修センターの概況

### (1) 「第3期岡山市教育振興基本計画」における位置付け

岡山市教育委員会は、令和4年3月に「第3期岡山市教育振興基本計画」を策定し、新たな時代を生きる子どもたち一人一人が、夢と希望をもち、幸せな人生を切り拓いていくことのできる力を育むことを目指しています。

教職員の資質・能力の向上に向けては、施策5-1「教職員の資質・能力の向上と支援体制の充実」において、「喫緊の課題に対応しながら教職員研修の充実を図る」、「若手教職員の授業力等の向上に係る取組を推進する」、「教職員が、教材研究などに専念する時間や、子ども一人一人と向き合う時間の確保によって子どもの成長を実感し、やりがいを感じられるよう、教職員への支援体制を充実させる」としています。

その中で、教育研究研修センターは、「教職員の力量を高める教育研究事業」、「教職員研修事業」、「OJT若手教員育成支援プロジェクト」、「ICT活用指導力向上事業」等を実施することで、教職員の指導力等の向上を図っています。

### (2) 施設の概要

現在の教育研究研修センターは、市内東部にある西大寺公民館併設施設として、平成23年に開所しました。以来、岡山市の教育に関する調査及び研究を踏まえ、教職員の資質・能力の向上と学校組織の活性化を推進することで、教職員への支援援助の充実を図り、本市教育の振興に努めることを運営方針とし、主に「研究」「研修」「情報教育の推進」の3つの取組を行っています。

#### <主な事業>

- ・ 教育課題についての調査研究
- ・ 教職員の資質・能力向上のための研修や支援
- ・ 教育の情報化の推進
- ・ 教育関係資料や情報の収集、整理、提供
- ・ ワークステーションでの軽作業による岡山市立学校支援

#### ① 研究への取組

- ・ 国の方針や岡山市の教育課題、最新の教育内容を踏まえた研究を指定協力校と実施し、研究成果を岡山市立学校へ展開します。
- ・ 若手教職員等の指導力向上のための授業動画や学習指導案のアーカイブにより、教職員の主体的な学びを支援します。
- ・ 教育情報の収集・整理・提供により、教職員の研究を支援します。

#### ② 研修への取組

- ・ 岡山市の教職員に求められる資質・能力「情熱、力量、人間力」を育成するための「岡山市教員等育成指標」をもとに、キャリアステージに合わせた研修を実施します。
- ・ 増加する若手教員・常勤講師への訪問指導や、校内のOJT体制構築の支援、新

規採用者への訪問指導を行います。

- ・ 指導主事によるICT活用を含めた校内研修等の支援を行います。

### ③ 情報教育推進への取組

- ・ 学びの基盤である「情報活用能力」の育成を推進します。
- ・ 教育の情報化を推進していくための、1人1台端末や校内ネットワーク環境等のICT環境の整備や校務支援システム等の導入、維持・管理を行います。
- ・ 民間企業と協働し、ICTを活用した授業づくりや教職員のICTスキルを向上させるための研修等を実施します。

## (3) 現教育研究研修センターの課題

### <施設規模>

- ・ 研修室 … 60名規模1室、10名程度規模3室  
※60名を超える場合は、他施設を利用
- ・ 情報教育演習室 … ICTを活用した授業づくりに関する研究や研修等を実施
- ・ 教科書センター … 現在使用している教科書や採択用教科書等を展示
- ・ 授業開発支援ルーム … 教職員を支援するための学習指導案や指導資料、研究収録、教育雑誌等を公開
- ・ 駐車場…30台程度（西大寺武道館・テニスコートと共用）

政令指定都市移行に伴い、全ての職種に応じた研修を幅広く実施するようになっていますが、あわせて、今日的な教育課題への対応や、対面・集合型研修、オンライン研修等、多様な方法による研修を通して教職員の資質・能力の向上を図ることが求められるようになっていきます。

しかしながら、現施設は、研修可能人数や研修室数等が十分でないことから、研修内容の制限や、教材等の充実を図るスペースが不足しているなどの課題があります。

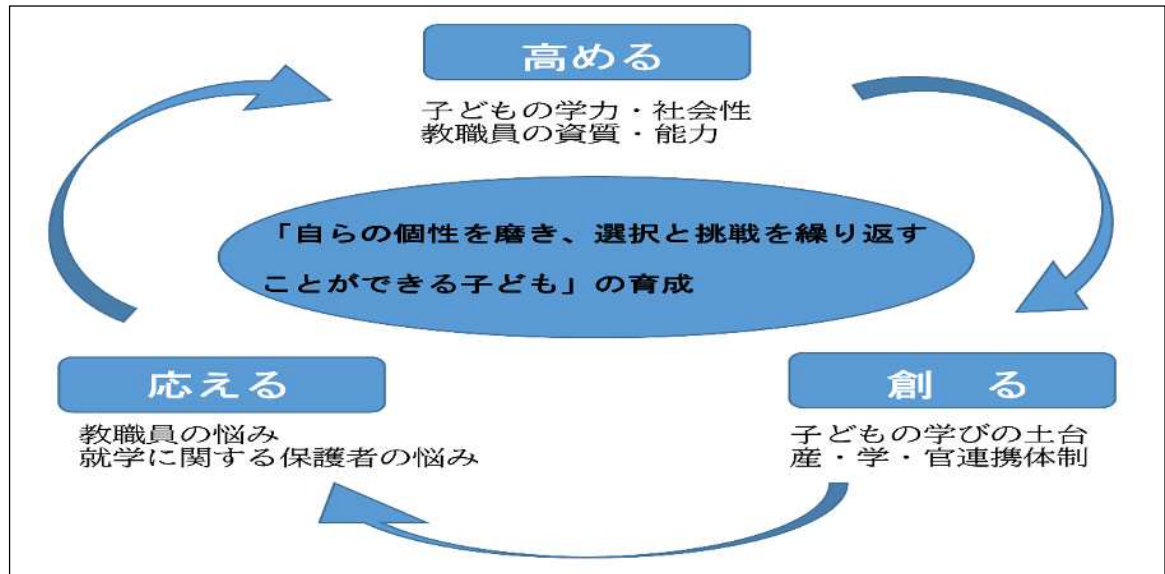
そのため、全研修（年間約270回）の6割以上は他施設で実施していますが、実施日や研修室の広さなど希望に合った施設予約が困難なことやICT環境が整備されていないこと等、研修内容に制約がかかることもあり、より高い専門性の獲得や効果的な研修の実施に適した環境であるとは言い難い状況です。

また、施設が市内東部に位置することから、学校からの移動に時間を費やす教員も多く、「子どもと向き合う時間」の確保や働き方の面でも課題を有する状況が生じています。特に、教材研究等、大学等高等教育機関との連携面で、施設機能的にも地理的にも課題を有しており、関係職員の努力や工夫だけでは対処できない状況が生じています。



### 3. 新教育研究研修センターのコンセプト

#### (1) 目指す新教育研究研修センター像



#### (2) 新教育研究研修センター機能のコンセプトイメージ

- ① 岡山市教育大綱の理念実現を目指す研究・研修を行う施設
- ② 民間企業や大学等高等教育機関と協働し、専門的な研究・研修を行う施設
- ③ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた研究や研修、就学相談の窓口となる施設
- ④ 公民館等、地域における社会教育活動の実践に基づいた研修を行う施設
- ⑤ 「教育総合情報センター」としての機能を果たす施設



### (3) 新教育研究研修センターにおける取組の重点

#### 高める

- ・ 学び続ける教職員の育成を図る研究や研修を行い、「第2期岡山市教育大綱」で目指す、「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」の5つの力を岡山市の子どもたちに育むための資質・能力を「高めて」いきます。【コンセプトイメージ ①】
- ・ 様々な教育課題に対応していくために、民間企業や大学等高等教育機関と協働し、専門的な最先端の情報や技術を活用し、理論と実践を往還させながら効果的な教育実践へ「高めて」いきます。【コンセプトイメージ ②】
- ・ 幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた研究や研修を行い、小学校へ入学後も自らの力を発揮し、就学前の教育及び保育を通して育んだ資質・能力を引き続き「高める」ようにします。【コンセプトイメージ ③】

#### 創る

- ・ データや実践事例等について大学等高等教育機関と協働しながら分析・考察したことを基にして、より効果的な教育実践を行うことができるようにすることで、子どもの学びの土台を「創り」ます。【コンセプトイメージ ②】
- ・ 社会教育活動の実践について学ぶ研修を実施したり、公民館職員等と教職員がともに研修する機会を設けたりすることで、社会教育と学校教育の双方向の情報共有を図るとともに、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す中で、子どもの学びの土台を「創って」いきます。【コンセプトイメージ ④】

#### 応える

- ・ 「活用力」と「表現力」の育成に向け、ICTの活用は不可欠であることから、教育の情報化のさらなる推進と教職員のICTスキル向上を図るためのニーズに「応え」ます。【コンセプトイメージ ①】
- ・ 就学に関する保護者の悩みに「応え」、子ども一人一人の成長を促す支援を行います。【コンセプトイメージ ③】
- ・ 様々な教育課題・教育活動に関わる最新情報・資料等を収集・提供するとともに、家庭、学校園、地域社会等に情報を発信し、子どもの育成のニーズに「応える」ため、様々な角度からサポートします。【コンセプトイメージ ⑤】

## 4. 新教育研究研修センターの施設概要

### (1) 新教育研究研修センターの想定規模

研修室等		面積(m <sup>2</sup> )
研修エリア	大研修室（分割可能） ⇒A	780
	中研修室（分割可能） ⇒B	180
研究エリア	オープンイノベーションルーム【授業研究】（分割可能） 授業研究・教科研究・教材開発等 ⇒C	190
	オープンイノベーションルーム【教育課題研究】 幼保小連携・開かれた教育課程等 ⇒D	70
情報教育推進エリア	情報教育演習室【未来の教室】 ⇒E	100
	G I G A推進ルーム・スタジオ ⇒F	40
	情報教育推進室・機器保管室	100
相談エリア	就学相談ルーム ⇒G	100
その他	執務室	150
	オンライン会議室	35×2
	会議室	50
	教科書センター	80
	授業開発支援ルーム	100
	施設管理・書庫	70
建物部分面積 小計		2,080
共用部加算(×1.6) 計	コミュニケーションスペース ⇒H	3,328
	オンライン研修・e-learning スペース ⇒I	
	ロビー、廊下、階段、エレベーター、トイレ等	

※ 施設内どこでも通信が可能な wi-fi 環境の実現

## (2) 主なエリア概要

### ① 研修エリア

#### 個別最適な研修、協働的な研修の企画・実施

国は、子どもたちを取り巻く環境の多様化や情報化の進展といった社会的変化に対応するため、「GIGA スクール構想」、「インクルーシブ教育の推進」「小学校における教科担任制」等の新たな施策を進めています。教育を巡る状況の変化もスピード感を増し、教師自身が高度な専門職としてたゆみなく新たな知識技能の修得に努める必要が高まっています。

また、教職員の学び方も多様化し、研修内容に応じた研修形態の他、オンライン等を活用した個別最適な学びを可能とし、教職員が学びたい内容を効果的に学ぶことのできる施設、欲しい情報をいつでも獲得できる施設が求められているとの考えのもと、研修室等の役割を検討しました。当初は、ホールの機能を設けることを検討していましたが、今後の研修の在り方を検討する中で、2フロアを必要とするホールではなく、研修者の人数によって、柔軟に広さを調整できる分割可能式の大研修室等を設けることとしました。

#### 大研修室（780㎡）

⇒A

- ・ 200名程度の収容を想定
- ・ 岡山市立全校園の代表が集まる研修を実施するための室（観覧席なし）
- ・ 研修会、講演会、発表会、展示会、子ども向けイベント等の実施
- ・ 天吊りプロジェクター、ツインモニターを設置
- ・ 活動の様子をオンライン発信できる設備を設置
- ・ 分割可能
- ・ 机椅子等を格納する倉庫及び講師控室2室、トイレを含む

#### 中研修室（180㎡）

⇒B

- ・ 100名程度の収容を想定
- ・ 研修会、講演会、発表会、展示会等を実施するための室
- ・ 天吊りプロジェクター、ツインモニターを設置
- ・ 活動の様子をオンライン発信できる設備を設置
- ・ 分割可能
- ・ 机椅子等を格納する倉庫を含む

## ② 研究エリア

### 新時代に求められる教育内容の研究

変化が激しい時代に対応するため、これまでよりさらに短いスパンで新たな学びを構築していく必要があると予想されており、様々な研究機関と協働し、先端技術を活用した調査研究を迅速かつ継続的に行う必要があります。そして、研究の成果を学校園での実践に活かすことができるような研修を実施していくことで、学校園の支援につなげていく必要があります。

また、変化の目まぐるしい時代への対応を行政や学校だけで担うのではなく、様々な知見や経験をもつ大学等高等教育機関や民間企業とともに、様々な教育課題に対し協働的に対応することが求められています。

特に、知の集積地というべき大学等高等教育機関と協働して研究していくことを積極的に進め、教職員が最先端の知識を得ることができる機会につなげます。

#### オープンイノベーションルーム【授業研究】(190㎡) ⇒C

- ・ 教科研究・授業研究を推進するための室
- ・ 教材開発等を研究・支援するための室
- ・ 大学とのオープンイノベーションで活用
- ・ 天吊りプロジェクター、モニターを設置
- ・ 活動の様子をオンライン発信できる設備を設置
- ・ 分割可能
- ・ 教具等を格納する倉庫を含む

#### オープンイノベーションルーム【教育課題研究】(70㎡) ⇒D

- ・ 幼保小連携、開かれた教育課程、インクルーシブ教育、学校運営やカリキュラム・マネジメント等、岡山市の教育課題解決に必要な研究を推進するための室
- ・ 大学とのオープンイノベーションで活用
- ・ 天吊りプロジェクター、モニターを設置
- ・ 活動の様子をオンライン発信できる設備を設置
- ・ 教具等を格納する倉庫を含む

### ③ 情報教育推進エリア

#### ICTの活用と教育実践を結ぶ

国のGIGAスクール構想推進により、子どもの学び方が大きく変わってきています。

このような状況の中、情報教育演習室は、子どもたち一人一人の興味・関心や認知特性を踏まえた「学びの自律化・個別最適化」や、「知る」と「創る」が循環する文理融合の学びである「学びのSTEAM化」を実現できる、「未来の教室」をイメージできる室内環境が必要と考えます。

今後、子どもたちが情報化社会を主体的に生きるためには、学習の基盤となる資質・能力である「情報活用能力」を身に付けていくことが不可欠です。そのためには、まず全ての教員が模範となり、自信をもってICTを活用した授業を実践できるようにすることが必要であり、最新のICT環境の整備と共に民間企業等と協働した研修の実施、ICTを効果的に活用した授業研究の充実を図ります。

また、先端技術の導入は、教職員の仕事の効率化等、学校現場の課題解決に結び付くことが期待されます。

#### 情報教育演習室【未来の教室】(100㎡)

⇒E

- ・ 1人1台端末の活用を伴った研修を実施するための室
- ・ VR(仮想現実空間)等、最新のICT環境に触れることができる室
- ・ 市内の児童生徒や教職員にも開放し、先端技術に触れることが可能
- ・ STEAM教育やプログラミング教育を実現するための民間企業等と連携したAIやロボット、ドローン等の利用
- ・ 日本全国や世界とつながり、講師や専門家等とオンラインで対話可能
- ・ 天吊りプロジェクター、ツインモニターを設置
- ・ 活動の様子をオンライン発信できる設備を設置
- ・ 全面ホワイトボード兼スクリーンとなる壁面構成

#### GIGA推進ルーム・スタジオ(40㎡)

⇒F

- ・ ライブ配信の実施に利用する室
- ・ デジタルコンテンツや映像アーカイブ等を作成できる設備(高性能パソコン、モニター、ビデオカメラ、チェンジャー、スポットライト、高感度マイク等)を設置

#### ④ 相談エリア

##### 就学に関する保護者の悩みに応える

保護者からの就学に関する様々な悩みを受け付け、就学相談の総合窓口となります。電話や対面による相談だけでなく、リモートによる相談も受け付けます。

また、相談内容に応じて、様々な機関と連携することにより、生活や学習の支援の充実を図ります。

##### 就学相談ルーム（100㎡）

⇒G

- ・ 就学相談の窓口となる室
- ・ 就学相談室として、保護者から相談を受付けたり、ケース会議を行ったりするための室
- ・ 出入り口は、教職員とは別

#### ⑤ その他共有スペース

##### コミュニケーションスペース

⇒H

現教育研究研修センターでは、教職員同士が交流できるスペースがなく、教職員は研修終了後にそのまま解散しています。

新教育研究研修センターでは、研修終了後に、研修参加者同士あるいは講師と研修参加者が自由に交流を行うことでさらに深い学びにつなげることのできる空間を創出し、単なる研修場所としてだけでなく、学びが最大化できるようにします。

##### オンライン研修・e-learning スペース

⇒I

オンライン研修・e-learning スペースを設置し、教職員が自主的に動画を視聴できるようにします。



## 5. 施設整備

### (1) 事業手法

新教育研究研修センターの施設整備に当たっては、主目的である教職員研修施設としての運営・管理面の特性等を踏まえ、官民連携の手法を導入した場合のメリットや事業の全体工程などについて、検討を行いました。

また、同類施設での導入事例が少なく、民間事業者参入メリットの検証が困難であることに加えて、次期学習指導要領改訂への対応準備や急速に進むICT環境の変化等、整備期間中に臨機対応の必要性が生じる場合等を総合的に勘案した結果、岡山市が自ら事業実施主体となる事業手法を採用することとします。

### (2) 施設規模・環境配慮等の想定

本市の公共施設等マネジメントに関する基本方針に則り、施設整備コストの低減・平準化や施設需要や市民ニーズの変化への対応などにも配慮し、施設面積の適正化(ダウンサイジング)や複合化を検討するとともに、次世代の子どもたちを育むための先進性・多機能性を備えながらも、必要にして十分なコンパクトな施設を目指します。

整備予定地は、岡山市北区富吉 2707 - 9 (敷地面積約 3,500 m<sup>2</sup>)、施設の想定延床面積は、3,328 m<sup>2</sup> (駐車場用地を含まない) とし、ICTの活用などによる施設間ネットワーク環境の充実も含め、技術の急速な発展を踏まえた高機能化に取り組みます。

また、脱炭素社会の実現を念頭に、将来的な再生可能エネルギー由来の電力調達を見据えた発電・蓄電設備等の設置などについて、関係部局とも十分な協議を行いながら必要な対応を図ることとします。

### (3) 想定事業スケジュール

時期 主な作業工程	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度	
	10~12	1~3	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期
「基本方針」の策定等	■									
地質調査				■						
設計者選定		■								
基本設計			■	■						
実施設計					■	■	■			
施工者選定							■	■		
工事								■	■	■
引越										■